

「就職」と「学歴社会」の現実をありのままに見つめましょう

まず右の記事を見てください。これは2017年8月27日の毎日新聞の第1面の記事です。この記事の意味は「近い将来は銀行業が求人をしなくなる可能性がある＝今のようなかたちの銀行がなくなってしまうだろう」というものです。志成館は最近の ASSETS でアメリカの週刊誌TIMEの記事から「**将来自分の子供たちが一体どのような仕事をしているか予測がつかない保護者が70%近くいる**」という内容のメッセージを送りました。またTIMEに載っていた「**アメリカで将来生き残れる仕事内容についてのランキング**」の記事も紹介しました。そうなのです、君たちには将来の安定した職業の保障もないくらいに産業構造も変化してきているのです。そんな中で、「たぶんこの仕事や会社は将来も生き残るであろう」という判断が難しいことは言うまでもないことなのですが、その「**将来性があると自分で考えた会社に入ること**」さえもがとても難しくなっています。そこでこの項は、中学生高校生そして大学生の参考になればと思い、20年以上前に作成して志成館のすべての生徒に配布していて、10年前にリメイクしていた**志成館の ASSETS** を再度リメイクしてホームページにアップしました。この文書を参考にして、恐ろしいほど厳しい「**就職という狭き門**」を通り抜けてください。「**自分が入りたい会社にしがみついても入ろうという決意がある人**」にはきっと役に立つと思います。それにしても今に比べると1973年ころの館長が大学を卒業した時代の就職状況は「**夢の世界**」だったとつくづく思い知らされます。

A-1が個人格付け

鳴動 Fintech

第1部 転換の足音 ①

「私はバンクが高いから、多くの優待を受けられるんだ。8月、下旬、スマートフォンで夏休みの旅行の予約を終えた北京の会社員、王佩さん(38)は満面をうつらうつらと、中国のホテルでチェックインの際、保護者を叫ぶ。王さんは無言だ。

「中国の銀行は、多くの優待を受けられるんだ。8月、下旬、スマートフォンで夏休みの旅行の予約を終えた北京の会社員、王佩さん(38)は満面をうつらうつらと、中国のホテルでチェックインの際、保護者を叫ぶ。王さんは無言だ。

グループのスマホ決済サービスと連動した「信用スコア」が可能に。スマホ決済の利用情報に加え、車や家の保有資産、学歴、友人などの情報を入力すれば、人工知能(AI)が9.0のスコアでスコアを算出する。

IT企業に勤め、買い物かぶら共計金5000元(約10万円)のスマホ決済サービスを利用している王さんは、5段階のうち最高ランク。スコアが高いほど使える優待も多くなる。規制があり金融サービスが遅れていた中国が、近年はIT企業が既存の金融を飛び越え、ITと金融を融合したフィンテックを金付けている。スマホ決済は代表。スマホ決済でタクシー、商品などをあらゆる場面で簡単に支払いができる。その決済情報から王さんのスコアが算出される。スコアは個人の「信用」にも関係する。スコアは個人の「信用」にも関係する。

中国先行 高スコア優遇で急増

利用されたことがある。個人情報、対象はスコア700以上の人が700を超えた。ネットで見たいサイト表示は、自分のスコアを映した画像が自動的に表示される。個人情報をネットにさらす警戒感はなく、高スコアを誇っているかのようだ。



最高ランクの信用スコア700超えを示したスマートフォン画面を見せる王さん。北京、赤門前に撮影。

フィンテック 英語のファインテック(金融+テクノロジー)を組み合わせた造語。ITと金融を融合させた新しい意味を持つ。スマートフォン決済による投資助言サービスが登場している。

アリババの狙いは、買い物や移動履歴などあらゆる個人情報把握し、ビジネスに活用することにある。それが政府に吸い上げられることも想像に難くない。だが王さんは、便利さを求める社会のつわばねにも止められない。

国内でも、みずほ銀行とソフトバンクが、信用スコアに基づいて融資条件を決める金融サービスを始める。日本でも聞こえてきたフィンテックの足音。暮らしや経済はどう変わるのか報告する。

(今回は特別版に26日掲載予定)
3面について

就職と学歴について

志成館

ASSETS 2007年5月10日特別版
2017年8月31日 ホームページ用 訂新版

今回のASSETSはひろく「**学歴**」と呼ばれるものの実態についての説明をします。小学生や中学1年生にとっては難解で早すぎる話ですので興味がある人だけ読んで下さい。中学2年生と中学3年生はこの文書を読むと**企業社会における受験戦争のもつ本当の意味がわかりますので必ず読んで下さい**。高校生や大学生になったら、就職その他で「**夢がかなえられるようにするため**」、同時に「**就職の際に損をしないためにも**」ぜひ読んでください。※この文書は館長本人の人生における各種の失敗や無知に対する後悔と反省の内容にもなっています。

《事前に述べておきます》

ここに書いてある文書の内容はとても現実的で厳しいものであるため、「将来に明るい夢を抱いている君たちに伝えてよいものか」また「君たちの保護者の承諾を得ないでこのようなこと伝えてよい年齢に達しているのか」ととても不安な面があります。しかし志成館では「君たちにできるだけ早く強立派な社会人になってもらいたい」「自分の将来を現実的に見ることが早くから出来るようになり今のうちから堅実な努力をしてもらいたい」という考えをもとに今日まで在館生に「世の中の本当の姿」を伝えてきました。この志成館の信念に沿って今回もこの文書を出しますので善意に解して読んで下さい。

尚、この文書の内容には職業についてのいろいろな事が書かれていますが、志成館の指導方針の前提となっている「**職業に貴賤(尊いか尊くないか)はない、すべての働く人やすべての社会的に有用な仕事は尊重されるべきであり、すべての働く人は自分の仕事や人生について自信と誇りを持って日々を送っており、そのすべての行為は等しく尊重されるべきである**」という考え方をしっかりと理解した上で読んで下さい。

就職と学歴との関係

現在日本の経済状態は少し上向きかけたといわれていますがやはり景気はよくないようで、大学生などが希望する会社になかなか就職できなかったり、就職の面接やテストの際に冷たく扱われたり不公平に扱われると感じることが多いという意見をよく耳にします。就職という人生のとても大切なことで悩んでいる若者達に対して私達大人はできることなら精一杯の若い世代の手助けをし、できたらみんなが希望する仕事に就けたらどんなにうれしいことかといつも考えています。しかしグローバルゼーションという中での競争で、現実にはなかなかそのようにはいきません。ここではまず就職という出来事を高校生や大学生を採用する会社の側から見たらどうなっているのかを述べたいと思います。

会社側の事情

現在の日本の経済的な仕組みは自由な競争社会(自由主義社会、資本主義経済社会)ということになっています。そして世界中も多くが先進国や発展途上国の区別なく日本と同じくみになっています。君たちがよく耳にする「グローバルゼーション」という言葉は「世界を単一の経済構造として把握し、世界中の企業や個人は自己の経済的利益を求めてその中で激しい競争している」という現象をさすものなのです。将来には、今みたいな過酷な競争がなくなり、より人間的でのんびりした人生をみんなが過ごせるような社会(超高度福祉社会や理想的な社会主義や民主的な共産主義社会など)がくるかもしれませんが、こしばらくはそんな時代が来るようには思えません。だからここでは現在の日本や世界の社会の仕組みを前提に話をすすめます。

そうするとこのような競争社会では、会社(会社を含めて広く事業をする組織を企業と呼びます)は、そこがどんなに大きくて有名でそして安定した会社であっても、どんな小さないつぶれるかわからないような会社であっても、またたった一人で経営している会社であっても、すべてが同じように、「自分の会社が競争に勝って長く繁栄しつづけるために」毎日精一杯企業努力をしているということがわかるはずで。君達に名前がよく知られている有名な会社ほどもっとしっかりと名前を知ってもらうために莫大な費用をかけて新聞やテレビや看板などで宣伝をしていることからこのことは簡単に理解できるはずで。従ってどのような企業であっても当然のことながら、会社自身が発展し生き残るために、できるだけ優秀な若者を会社に採用し、そして会社の中で人材を育成し、会社のために一生懸命働いてもらう人を求めていることが簡単に理解できるはずで。

それでは日々競争にさらされている企業はどんな人物を採用するのでしょうか？

- ① 仕事が早くたくさんできる人(事務処理能力)
- ② 協調性があってみんなと仲良く楽しく仕事ができる人(協調性)
- ③ 知識が豊富で専門的な技術を身につけて困難な仕事ができる人(専門的な知識)
- ④ 新しい時代やものの考え方も粘り強くついていくことができる人(粘りや根性)
- ⑤ 体力があって欠勤などをあまりしない人(健康と体力)
- ⑥ 礼儀正しくて挨拶などがきちんとでき品がよく言葉使いも正しい人(礼儀作法や品格)
- ⑦ 創造力に富んだ人(創造力)
- ⑧ 元気な若者 (覇気)

このような人たちを企業が採用するであろうことは簡単にわかるはずである。

逆に、次のような人物を普通の企業は採用しないと思います

- ① わがままで、思いやりや協調性に欠け企業という組織が円滑に運営できなくなるような人
- ② 仕事が遅く、ミスが多いために会社に損失をもたらす可能性が高い人
- ③ 漢字や簡単な英単語も知らないために仕事が覚えられない人
- ④ 英語などが全くダメで外国との取引のときに役に立たない人
- ⑤ すぐに仕事を怠け、会社を休んで遊んでしまうような、会社の組織的な仕事に支障が生じるような人
- ⑥ 暴力的で、下品で、不潔で、お客さんが逃げてしまいそうな人
- ⑦ 言葉使いがひどくて挨拶さえもきちんとできないために、取引の相手方や消費者を不愉快にする人
- ⑧ 愛無愛想で、可愛げがなく、細かいことに気が回らないような人
- ⑨ 人から言われたことをするだけで、自分から積極的に活動しようとしていない人
- ⑩ 新しいこと、創造的なことが全くできそうにもない人
- ⑪ 体が弱くて病気になってすぐに会社を休む人
- ⑫ 体力がなくて厳しい仕事に耐えられない人たち

このような人たちは企業に採用されないであろうことは誰にでもすぐにわかるはずで。

基本的な前提として、企業はこのような立場で従業員採用の可否の判断をしていると思って良いと思います。この時点で「企業は冷たい」とか「非人間的である」などと言って批判するのは間違っています。なにしろ企業はグローバルな競争のなかで勝って生き残らなければならないし、さらに繁栄し、長く存続し続けることが第一目標だからです。就職の時にはどのような企業でも仕事を求める若者達に対してこれらのすべての側面をチェックしたうえで採用するかしないかの判断をしているのです。

就職を求める若者達にとっては、就職試験ほど残酷で厳しく、見方によっては非人間的な判断がなされていると思ってもよいでしょう。しかしそれは採用される側の都合に過ぎないのであって、企業としてはそれ以前の事情があることは理解する必要があるのです。

加えて漠然と企業社会を批判し、誤った社会主義や共産主義の理念などから、もっと気楽な仕事や人生を望んでいるような愚か者に対しても、**百姓(=最も原始的な産業である農業従事者)であることを誇りにしている森館長の立場から、資本主義社会であろうとなんでであろうと、懸命に知力や体力を使い果たさないと豊かな生活は望めない**のであって、「**額に汗して働く意欲がない人間には生きる資格がない**」と強く言い放っておきます。

※ 実は今日 2017 年 8 月 28 日(月)も、朝6時から畑の草刈りをしてきて少し疲れ果てて感情的になっているのですが(笑)。

そこでだ・・・

ここから今回のASSETSの目的の最も大切なところに入ります。

自分の勤めたい企業に就職するためにはどうすべきだろうか

自分の就職したい企業に入るための条件 その①

まず企業はその人の学歴を見て採用するかしないかを判断する事を知ってください

企業は、その仕事内容の難しさや規模の大きさや仕事の危険性などからみて、一定の知識や技術がないと採用しない場合があるということを知っておく必要があります。例えば銀行や大建設会社や薬品会社などの管理職(社員を指導する立場にある人)は仕事が難解で大規模で危険性が高いため、一定の能力や知識をもった人しか採用しないとあらかじめ決めているところがたくさんあることを理解してください。それではここで言う「能力」や「知識」とは何なのか、企業は何を基準にして会社に採用する人の能力や知識を判断するのでしょうか。

—ここからしっかり読んでください—

普通企業は採用する人の卒業した高校や大学の名前を見て判断するのです

就職を希望する人の卒業した高校や大学が、合格しにくい難関の有名大学か、点数が悪くてもだれでも入れるような平凡な大学かを調べて採用するかどうかを決めるのです。そして進学した大学がどれだけの人材を育ててきているか同時に参考にします。

これが「学歴社会」と呼ばれている社会の本体なのです

「卒業した高校や大学の名で採用か不採用かを決める学歴社会なんてひどい!!」などと言って、学歴社会を批判する人がたくさんいます。その考えも一面では間違っていない、人間の価値が卒業した学校で決まるわけではないからです。

しかし、競争に勝ち抜いていきいかなければならない企業側は一体何を基準にして従業員の採用を決めたらよいか考えてもみてください。「**その人が将来企業に入って役に立つかどうか**」しか判断の基準はないのです。企業が生き残って繁栄するような人材しか採用しないのは至極当然のことなのです。

それではそのときなぜ仕事を求める人たちが卒業した「学校」の名前(=学歴)で判断するのでしょうか?それをわかりやすく説明しますと次のようになります。

『日本の小中(高)生はみんなが学校で勉強している。しかも平等に。比較的制度が整った日本では、憲法26条の保障下で、義務教育の名前もとに、子供たちは「自分の将来を豊かにするための権利」として勉強している。親から勉強させられていると考えている「大ばか者」もたくさんいるのですが(笑)。この平等な教育や学習の条件の中で成績の良し悪しが生じるがこれはなぜなのか? 本人の頭の良し悪しが原因なのか?それとも親の頭の良し悪しが原因なのか? いや決してそうではない。もともと生まれつきの人間の能力にそんなに差があるはずがないことは医学的にも証明されている。ということは学力に差がつくのは本人が「学習」という与えられた「仕事」を一生懸命に頑張って努力したか、怠けてきたかによることから差がつくことが理解できるのです。中学生になってから、人によっては小学生の時から遊びも我慢して勉強したからこそ成績が良くなって一流と呼ばれる大学に合格できたのである。このように努力をして、成績がよくなって難しい高校や大学に入った人なら、きっと自分の会社に入っても会社で努力をして頑張ってくれる。この人が会社に入ってくると会社は繁栄する。「採用だ!!」となるのです。』

つまり、

評価されているのは学校名ではなくその学校に入るためにしてきた努力なのです。

このことがわかれば学歴社会の批判ばかりもできないことがわかるはずですよ。

自分の就職したい会社に入るための条件 その②

次に企業は「**求職者の健康状態**」をみます。

「体のここが悪いあそこが痛い」といってしばしば仕事を休むような従業員がいれば企業は成り立ちません。継続的に提供してい

る会社の製品の利用者やサービスを受けているお客さんや取引相手の会社から不満が出て、このような会社はあつという間に潰れてしまうでしょう。そこで当然「健康で体が丈夫な人」が優先的に採用されることがわかります。

※ 森館長が授業中に「勉強が得意でなくとも学校や塾を休まない生徒は将来仕事なくなるようなこと＝収入がなくなって路頭に迷うことがないから、その生徒の将来についてあんまり心配はしていない」といっているのはこのことに対応しているのです。

学歴その他の条件が同じなら体育系の部活に入っていた人などが優先採用されるのはこんな理由からなのです。たとえば部活でサッカーや野球や剣道を何年間もしていたならどんな激務にも耐えられる体ができているにちがいないと判断されるのです。但し第2順位であることには変わりはありません。今の時代のようにすべてが機械化されコンピューターによってシステム化されている時代では、体より頭脳のほうが優先されることは仕方がないことでしょう。(但し、主に体を使う肉体労働ではこちらのほうが優先順位になります。もっとも社会は全ての分野でロボット化が進んでおり、力がある仕事はほとんどなくなっていると言えます。)

先天的に体に故障があり慢性疾患がある人は意外と多い。残念ながら企業はこういふ人たちに対して採用を控えるところが多い。それでも最近では「会社は身体障害者を一定の割合で採用すべきである」という行政指導や立法がなされており、まだ不十分だけれども今日の社会は昔に比べると、身体障害者の採用などで就労希望者の差別をなくすという面では大変進歩したと思います。

自分の就職したい会社に入るための条件 その③

次に企業は「求職者の社会性や協調性」をみたくうえて採否を決定します。

みんなとうまくやっていけず、しょっちゅう隣人と争いをしたり仕事仲間をこまらせるような「わがままな人」がいると企業は困ったことになります。それにたとえ個人的な特別の事情や予定があつたとしても、ある程度は企業側の事情に合わせられる人でないと、企業みたいな「組織」は動かない場合が多いからです。「会社より個人が大切であり家庭の方が大切である」という考えは間違つてはいませんが、しかしみんながそんなことを言っていたら会社はつぶれてしまうことは誰にでもわかると思います。

この点からやさしさや思いやりがある人やボランティア活動や部活とかによって協調性を育ててきた人が選ばれるのです。ボランティア活動でもしようというハート(心)が選ばれるのです。部活で培ったチームワークが評価されるのです。

自分の就職したい会社に入るための条件 その④

次に企業は「マナー＝礼儀作法を心得、美しくて正確な言葉使いをし、個人の外見」をみたくうえて採否を決定します。

例えば店舗を構えて日々お客さんに接する仕事ではいつも明るい笑顔で元気に働かないとお客は集まりません。君達も店員が不親切で無愛想な店には行きたくありません。最近では技術が優先される医師でさえも、人当たりがよく面倒見が良い医師でないと大病院では採用されないとされています。患者が来なくなったら病院もつぶれる時代なのです。

そしてこの段階で行儀作法が出来ていない人はダメ、マナーが悪い人はダメ、いつもだらしない服装をしていたり下品な言葉を使う人はだめだということになります。言葉使いが幼稚であったり、動作が粗雑であったりしたら不採用になります。実際就職試験の時の面接ではドアのしめ方ひとつで試験に落ちてしまうのです。

※ 先生が普段から「礼儀が正しく思いやりがあつてやさしい人は人生でいろいろな面でいいことがあるだけでなくそのことがお金になって帰ってくるよ」といっているのはこの条件③や条件④に対応しているのです。

その他いろいろありますが、就職案内ではないのでこのあたりまでにしておきます。

自分の就職したい会社に入るための条件 その⑤

一流大学と呼ばれる大学に進学した主に理科系の大学生のための情報を提供します。

大学と企業はつながっています。長年の企業との付き合いから、例えば理科系の教授は「自分の就職口」をいくつか持っておられます。悪く言えば「コネ」、よく言えば「実績や伝統」から、一部の大学を代表する教授は、大きな企業との長い就職の世話の関係から、自分の力で就職をさせるだけの力を持っておられます。たとえば九州大学の大学院生が例えば九州電力などの大手企業に就職したい場合は、その学生本人がそれなりに立派な人間である限り、大学院に入った段階で「就職の保障」がされているということです。または「就職を斡旋してくれそうな教授のゼミに入れてもらう」のです。このような館長の言葉を信じる必要はありませんが、もしそのような情報が耳に入ったら、教授の力に頼るのも一つの方法です。格好つけて突っ張らないで、就職の時には素直に教授に頼るのです。それほど一部の大学教授には力ないし企業とのコネがあります(笑)。だって考えても見なさい、大企業の幹部と大学教授は学生時代の級友であることも多いのですから。

以上の結論をもう一度列挙します。

- ①勉強が就職のときに自分が希望する会社に入るためにはどうしても勉強をしっかりとっておかないといけないということ。
- ②健康な体を作りあげることが大切なこと。
- ③日頃から協調性がありみんなから尊敬されるような立派な人間になるという努力が必要だということ。
- ④言葉づかいや身だしなみや行儀作法がきちんとできていること。

※ 「学歴」による差別について、実際に館長が学生だったころ経験したことを話します。ずっと昔のことで今ではこんなことはないと思いますが、ある意味では今から振り返ると、「夢のように景気が良かった日本」の思い出話でもあります(笑)。

「ある日館長は友達と数人で一緒に、遊び半分で、ゲタをはいて、当時のある大手の銀行の就職説明会に行ったことがあります。その時は、まずお茶が出たあと、「ぜひわが社に就職してくれ」と勧められたうえ、その日のうちに「夜の飲食の接待」まで受けました。(九州大学の経済学部生でもこれくらいしてもらえたのです。ましてや東大や京大その他がどの程度の接待を受けるかは容易に推測できようと思います。)」他方で「その場こいた難易度の低い別の大学に通っていた友達は、採用試験の説明を受けたあと後日試験が実施され、そして冷たく落とされました。」一方では「お茶と夕食付き」無条件合格、他方は「テスト問題付き」無条件不合格というひどい差別があったのです。また会社によっては、広く大学生を求めるといったような就職試験を実施してはいますが特定の大学生以外からはじめから採点もせずに不採用と決めている大学もあります。これは今もあまり変わっていないと館長は考えています。現在「企業へのエントリーシートで一次審査をする」仕組みはある意味では親切で公平な方法なのかもしれません。好況であれ不況であれ、50年近く前の館長の時代も今の時代もこれらの点は基本的には何も変わらないのです。

このようなことにつき「企業というところはひどいものだ」と批判はできないということは上述の通りです。いわば「まと外れ」な批判だからです。何度も繰り返しますが、企業というものはそもそも最初に述べたような厳しい競争の場に置かれているからこういうことがあっても仕方ないのです。企業側そのものは、社会に存在し続けて、一定の重要な役割を果たし、国民生活を豊かにし、同時に自社の利益を上げ続け繁栄していかなければならないし、そうする権利があるのです。会社をつぶすわけにはいかないという要請がどうしても働くのも当然なのです。 仕事を求めている若者の人間性が、会社側の要求にあっているかで都合がよいかどうかの視点でしか評価されなくても何らおかしくないのです。

以上のことを理解した上で就職したい会社があったら、上に列挙された条件を満たすよう努力すべきです。そうすればどこの会社でも就職できます。いったん希望する会社に入ると、その「会社という大きくて強い組織の中で、会社のもつ力を自分のものとして利用しながら、自分の夢や希望を実現できるようになる可能性もある」のでとても楽しい、大きな会社だと自分がとても強くそして偉くなった気がしてくるのです。そして会社は悪いことをしない限り(笑)組織の力で従業員を守ってくれるものなのです。

- ※ しかし好きな会社、大きな会社に入社できたからといっても安心はできません。わがままで協調性がなかったり、すぐに怠けたり、新しい時代に必要な知識や経験を都市と共に身につけていけない限り、会社内部での競争に負けてドロップアウトすることになります。
- ※ また、会社でそれなりに出世するためには、働き者でなければならないし、面倒見が良い人でなければならないし、謙虚な人でないといけないし、難しいことですが、「社内での人間関係の処理」も上手でないといけません。
- ※ 現在森が知っている九州を代表する財界の大物の人は、本人の努力と奥様の協力があって初めてその地位を得られたと尊敬しているのですが、それ程の苦勞も必要なのでしょう。
- ※ 君たちのお父さんやお母さんは、普段会社の中で君たち受験生以上の大きなストレスを抱えて仕事をしてある場合も多いのです。君たちを育てるために不平や不満を漏らさずに懸命にがんばってあるのだから君たちもできるだけ親には心配かけないようにして欲しいと思うよ。もちろん親だから甘えてもいいけどね。
- ※ 館長の判断だと、館長の友達で出世している人はたいてい、館長より立派な人格者でありことが多いように思えます(笑)。だから館長は現在もその人たちの生き方をお手本として生きているのです。

次に「学歴社会」などというこんな馬鹿な話が許されるものか!! と怒っている人のために話を移します。

が、その前に【一息入れて】「特殊な才能」と「コネ」について少し述べてみます。

「特殊な才能」とは

就職や進学の時などで友達の中には「本人の学力や学歴はたいしたことはないし、会社の仕事に関連した能力が特に優れているわけでもないのに、なかなか合格しにくい会社に簡単に就職していく人」がいることがあります。その場合には本人に特に優れた部分(たとえばオリンピックで金メダルを取ったとか、外国での生活が長いから外国語に堪能であるなど)があるか、本人の知名度が特に高いかが決め手になっていることがよくあります。これが「特殊な才能」と呼ばれるものです。いろいろな理由でいろいろな人が優先的に会社に採用されているようです。中学生や高校生である君たちには「部活でがんばって、県大会ですごい実績を持っている人」などがここに該当します。その点では部活で、ここを狙ってがんばっている人もいますし、それもよいと思います。

ただ次の事実は知っておください。①企業が不景気になったときに最初にリストラされるのは部活等で企業に入社した人からだとすることを。この人たちは会社に入り会社の中で部活をすることによって主に「会社の宣伝に貢献してきた人たち」なのですが、リストラされるときに会社からこういわれます、「あなたたちは会社に入って仕事を余り覚えてないし、仕事時間も短く、好きなことをやってきて楽しんだのだからリストラされても不満はないでしょう」と。②「特殊な才能」というものは意外と日持ちが悪くブームが去ると忘れ去られてしまい出世もなくなってしまうことも多いみたいです。当然のことながら企業の方針にもよります。

だから「特殊な才能」はなくてもなんらかまいません。

「コネ」とは

次に「コネ」についてすこし。「コネ」は粘土やぬかみそをコネくりまわす(笑)からコネというのではなく、英語のCONNECTION(コネクション=つながり)からきている言葉です。就職の場合におけるコネとは「採用する企業と就職しようという者の間に特別の人的、物的なつながりがあるためにそれを利用して、就職が容易になる場合のこと」をさします。普通、両親や親戚の人が会社の取締役クラスであったりその友人であったりする場合が多く、次には国会議員や県会議員の人たちの人脈を前提とした政治的な力による場合が多いのです。そんな時は会社に強い影響を与えうるというその人の会社での立場や政治的な力や金銭的な力で採用不採用が影響を受けることがあります。このようなことを「コネを利用して就職が決まる」というのです。まったく不公平で到底許されないことだと普通の人は考えるでしょうし、そのように考えておいてよいでしょう。

こんなコネはなくて当たり前です。コネがある友達などを絶対に羨ましがってはいけません。コネで就職したために仕事で行き詰まるということもよくあるのですから。そもそも「他力本願」はあまり勧められません。それに最近の不景気な時代では、コネを使って親せきや友人などを採用してやった人への批判が強く、入社させた側のその人の方が社内では危機に陥る可能性が高いので、安易に頼りにするべきでもありません。政治家と企業人がつながっているために、「政治家の関係者をコネで入社させること」で苦労している人も多いのが現実です。

そうはいっても将来就職などの時に「コネ」があったら自分の利益のためにそれを利用してかまわないと思います。しかしそもそもコネを使うことは反則行為なのでこんなものは期待しない方がよいし、コネなんて自分には関係ないと考えていた気楽でいいでしょう。まして「コネ」がないからといって両親や自分の運命に苦情を言うなどはもってのほかです。またコネを持った友達を決してうらやましがらないことです。コネを使ったために逆に将来が台無しになってしまうこともよくあることなのです。

※ずいぶん昔の話ですが、君達に真実を教えるということで先生の経験を述べます。ある年の有名会社の採用試験で、ある大学生の就職試験での不合格通知が来た後で、不合格者の両親がある事務所にやってきてどうしても合格させてほしいという話になり、事務所のおえらいさんが地元選出の国会議員に連絡してどうにかできないかということになり、国会議員の努力によって最終的には合格になったことがあります。お礼に大きな鯛が届けられました。鯛は上質の紙製であったりして(?) この場合、本来合格したはずの人が不合格になったわけで、その場に居合わせた館長は、当時は、実は今でもまだ(笑)、わりと潔癖な青年でしたので、あまり良い気持ちはしませんでした。今の時代こんなことはあまりないことと望みます。しかし君たち「心が純粹でまともな人たちが就職の時に傷つかないように、世の中にはこんなこともあることを知ってほしい」と思ってここに載せました。お許しを。

君たち若者は以下のことを今から長い間心の中に刻み込んでおいてください。

若者はいつでもどこでも正々堂々とたたかうことが大切です。たとえしばしば敗北することがあっても前向きに生きている限りチャンスは次々にやってきます。

館長が高校入試の際に「推薦など受けなくてよい」といっているのは実はこの部分とも関連しているのです。

さて話を先ほどのところに戻して「**会社なんかには就職してやるものか!!**」と考えている人のために次の話をします。

民間の企業に就職する以外の選択肢

多くの普通の人は何らかの会社に入ることが多いですが、別に会社に入らなくても自分で仕事を始めたり家の跡を継いだりスポーツや芸術の世界で生活してゆく選択肢があります。また会社に入った後自分に力をつけその後で起業するのもよいでしょう。

自由業について

弁護士、医師、公認会計士、建築士を筆頭にいくつかの「士=し」の名前がつく自由業はとても人気があります。好きな仕事が格好よく出来て、自由な時間があって、収入もよく、多くの人がそれなりに尊敬してくれそうな仕事であるからです。学者の人もかっこいいと思います。

「しめたこれだ！こんな仕事を将来はやってみよう」という気になりますか。テレビの「法律相談の番組」や「専門家の意見」などのコーナーを見て、誰でも一度はこんなこと考えることもあるみたいです。

しかしこれらの仕事をするためには次のことが必要であるということだけは知っておいてください。

① 就職試験とは比べものにならないほど勉強しなければならないということ。

日本一難しい大学は東大の医学部ですし、九大でも医学部にはなかなか合格するものではありません。ついでながら「私立の医学部を出て医者になるには大体5000万円ほどかかります。通常の家計では破産する金額です。だから普通の過程では「医学部は国立大学しかない」ということも。そしてどうしても医師になりたいなら2浪3浪もいとわれないことです。志成館の先生をしてくれた福岡

高校の卒業生は4回浪人して九州大学の医学部に合格して立派な医師になった人もいます。また弁護士や裁判官や検事になるためには2005年実施の司法試験でも大学卒業後平均7年間の学習をしないと合格しませんでした。(合格平均年齢は29歳以上です)今は比較的簡単になれます。(試験の制度が変わったことと、教材がとてよくなったことが挙げられます)

② 技術を身に付けるための苦勞が多いこと

大学に合格した後も、大学院に進学して修士や博士の資格を得る必要があり、仕事についた後も長い時間をかけて専門的な知識や技能を身につけていかねばならないこと。(これはどんな仕事でも同じですがレベルが高いために楽ではないということです)

③ 仕事そのものは決して楽ではないということ

医師は病人相手の仕事なので体も心も疲れる仕事です。弁護士は言い換えれば「示談屋または法律上のけんかの代理人」の面があり、事件に真子込まれて命を落とすことだって当然に考えられます。従ってそこでは「世の中で強い者にいじめられ、ひどい目にあっている人を命をかけて助けてやろう」とか「ガンを征圧して世界中の人を救ってやるのだ」というような**仕事への情熱や奉仕の心がないとできない仕事です**。カッコイイとか収入が多いからなどという理由だけではできる仕事ではなく、想像以上に大変な仕事と思っておいた方がよいということを知ってほしい。当然、**頑張る価値もあります**。

(挿話) これも先生の実際の経験から。①ある時友達の医師ら数人とビールを飲んで夜遊びして楽しく騒いでいる時に、一人の医師に電話がかかってきて、「先生の患者が死にかかっています。至急もどって来て下さい。」という連絡があり、その友達は慌てふためいて帰っていったことがあるのです。病院に帰ったのはいいけれど、酔ったままでちゃんと手術までできたかどうかはあとでは聞けなかったので知りません。②またある医師は「僕は数人の患者しか殺していないがひどい医師になると手術の失敗で十数人殺しているよ。」とのこと。冗談ばかりではないと思います。しかしこのことで医師を批判することはできません、彼らはその数百倍の命を救っているのですから。医師とはこんなに責任がある大変な仕事だということを知ってほしかったから述べたつもりです。

自営業について

農業や漁業、うどん屋、パン屋さんやケーキ屋さん、大工、左官、機械の整備工場、保険の代理業、コンピューターの仕事、ネット関係の仕事、ブティックなど具体的に仕事の名前を挙げると数千にもなってしまうほどたくさんの自営業者がいます。「その仕事に必要な程度の専門的知識や技術」がある限り高度な学力や学歴もとりあえずは必要ないものが多いし、わがままな性格や頑固な性格であっても自由に働けるので、仕事には直接的な影響はあまりありません。館長はもともと「農民」なので、自営業で生活できたならそれにこしたことはないと思うことがよくあります。農業は「最も原始的な産業」なので、「最も人間らしい仕事」「最も自分らしく振舞える仕事」と言えるのかもしれないからです(笑)。また両親が自営業の場合など、自分も後を継いでいっしょに楽しく仕事をしようと思っている人もいます。

この自営業の長所は

- (1) 自分の信念や好みに従って自由に仕事ができる。
- (2) したがって人間関係などであまり悩まなくてマイペースで仕事してもよい事になる。
- (3) うまくいくと短期間にまたは長い間のうちに大きな財産を築くこともできる。

しかし以下のことは理解しておいてください

- ① 自分一人が頼りだから仕事は大変である。病気をしようものなら収入が全く無くなることもあるし、景気が悪くなると長年の貯金もすぐに無くなってしまふことがある。
 - ② 時代の変化についていけないといろいろな面で取り残されてしまい結果として収入の道がなくなることがある。
 - ③ したがって自分の仕事について時代にあった独創性を求められることが意外と多く見た目より苦勞が多いこと
 - ④ 会社に入るよりもっと愛想よく、言葉使いや礼儀作法がきちんとしていないと収入が確保できない仕事が多い。
 - ⑤ 1日中仕事をする時があると思つてよい。誰でも参入できる仕事の場合は競争が想像以上に激しいこと。
 - ⑥ 働いても働いても無収入で、「じっと手を見る(啄木)」ことがある。農民そして塾の森館長が経験してきたことでもある。
 - ⑦ どんな自由業も意外と専門知識が必要とされる。そのため勉強している人ほど収入が多い傾向もある。
- しかしどんなに大変でも、好きな仕事を、楽しく、自分の理想に従ってやれるのがこの仕事の強みではある。

公務員について

次に県庁や市役所の職員、外務省などの高級官僚や「学校の先生」、警察官や消防士などの公務員について。県や国がつぶれることはないし、景気や不景気の影響も受けにくい、今の時代では収入も悪くはないということで将来は公務員になろうと考えている人も多いのではないかな。確かに仕事の安定性とその結果もたらされる精神的な安定感については群を抜いているかもしれない。それに「不景気な現代では、公務員の年収は民間人の年収をはるかに超えている。

しかし次の諸点は今のうちから理解してほしい

- ① 高級官僚になって出世するにはやはり東大の法学部に入っておくのが一番であるということ。東大でなくともそれに近い学歴

が必要とされる。だから勉強は大変である。数年前に志成館で教えていた先生は幸いなことに九州大学の経済学部からからこの試験に合格したよ。恵まれた環境で優雅に仕事をしています。

- ② 県庁や市役所でも採用試験が相当に厳しく、福岡県で上級職に合格するためには大学に通いながら公務員試験予備校などに通わないとなかなか合格しないということ。少なくとも九州大学程度の大学に進学していないと合格はなかなかできないと考えていた方がよい。最近では志成館がある小さな新宮町でも採用試験はとても厳しいものになっています。館長のころは町長が親戚だったこともあって、「町の職員になりたいならいつでも採用してやるよ」という時代でした(笑)。

※ 福岡県や福岡市で公務員になりたいのなら、たとえ上級職でなくても中級職であっても、「できれば九州大学程度の大学に進学してほしい、少なくとも西南大学程度以上に、コネがあっても(笑)福岡大学以上に行ってほしい」といつも館長が言っているのはじつはここの関係からなのです。

- ③ 中学や高校の先生になるための資格そのものは大学に進学すれば簡単に取れる。しかし「現実には教員採用試験に合格するのは相当に厳しく」、いろいろな塾で教えている先生の中には教員採用試験のための就職浪人をしながら働いている人がよくいる。君達が「学校の先生をどの程度尊敬しているか」は知らないが、学校の先生は、中学や高校の時の成績がとても良く、まじめな努力家であった事は明らかなのです。

総じて、公務員になるのは簡単ではない。「学習塾の存在理由」も、もとはと言えば「今日のような不況の時代にも強く、安定した生活を維持するために公務員になることを最低限度の保証とするための学力をつけるためだ」と言っても言い過ぎではないのかもしれない。小学校高学年から友達に負けまいと頑張っておかないとなかなか公務員の上級職には合格できないと思って良い。(別紙志成館資料集を参照してほしい)

- ④ 上級職ではなく、中級職や初級職の公務員の競争率はとても高いが試験そのものはそんなに難しくはない。しかし、国や地方公共団体の財政状態が厳しい時代には、職員の採用がゼロだったりしてどうしても時代の影響は受ける。警察官や消防士も楽に合格できるわけではない。今のうちからしっかりと勉強しておかないといけないし、中学時代に素行が悪かったりじめめしたりしてそのデータが残っていたら合格はできない。また小さな町や村の職員になろうとする時などで採用人数が少ない場合は「コネ」= 人脈がないと合格は不可能だと正直に告白しておく。館長の時代遅れの独断だと解してよいが、また仕事は安定しているといっても大金持ちになれることはない。もし豪邸を建てて優雅に暮らしたいと思うなら公務員はやめたほうが良い。また公務員は憲法 15 条にいう「全体の奉仕者」であるために生活態度もきちんとしておかねばならず、その面でのプレッシャーも相当にきつい。学校の先生がしばしば問題を起こして新聞などに載るが、先生は彼らに同情したい時がよくある。まじめな性格の人には向いている仕事ではある。館長は個人的には「教育ほど素晴らしい仕事はない」と若い時から考えている。

以上

中学生である君達の現在の日々の学習が将来の就職や職業選択に重要な意味をもっている事が少しは具体的にわかったと思う。実は君達のお父さんやお母さんはこの職業全般の事情を十分に知っておられるのだ。そのために、小学校の高学年から高校にかけての学習で友達に負けまいと君達の将来のために「頑張れ!!!」「しっかり勉強しなさい!!!」と励ましつづけているのです。有難いと思わないかい。うるさいと感じる時のほうが多いだろうけれど「親から子供への最大の愛情表現だ」と解してください。

繰り返しますが、中学生時代や高校生時代に勉強をあまりしないでおいて、その結果誰でも行ける高校や大学に通っておきながらいわゆる「一流会社に就職しよう」などと考えたり「学歴による差別がある」などと批判をするなんて身勝手過ぎるのです。自分に合った仕事がないと嘆くのは的外れなのです。中学時代に英語をいい加減にしておいて外交官になりたいとか公務員になりたいなどと言う資格などないのです。

志成館では

ところで志成館ではこのような「学歴や就職」の問題についてどのように指導しているかわかっているかな。

職業に貴賤はありません。だから自分が好きで、これならやりがいがあるし自分に向いている、と思う仕事であればどんな仕事でも自信と誇りを持ってすればよいのです。小学生や中学生の段階では自分の将来のことなどわからないと思う人はそれが普通の中学生のだからとりあえずはそれでもかまいません。高校生や大学生になって決めればよい事だから。

しかし君たちが将来、「こんな仕事に就きたい」とか「こういう人生を築きたい」と思ったその時に、「それになることははや手遅れで不可能である」というような状況にならないように、今のうちからしっかりと目標を立てるか展望を持って勉強などをしておく必要があることを理解しておいてください。

話が長くなるので以下は読まなくてかまいません。

「勉強そのものの価値」について

以上前のページまでで述べてきたことはあくまでも就職と学習との関連の話です。ですから

「学習そのものの価値・尊さ」については以上の記述の中では何も言っていません。

以上のこれまでの文章を読んだ後で、志成館のホームページの中で**「学ぶことの大切さ」**のところをぜひクリックして読んでください。強調しておきたいのは**上記のこと以上に、勉強そのものが楽しい人間の活動であるし、就職とは全く関係なしに勉強は君達一人一人をととても豊かにし、立派な人間にし、今後の君達の人生をととても楽しく素晴らしいものにするものであることをわかってほしいということです。**

志成館は新聞の折り込み広告などで「どの高校に何人合格した」とか「どこの高校がいい」とあまり言ったり書いたりしないように心がけています。宣伝のため必要なことは載せていますが、他方でよく「勉強すると魚釣りや映画や音楽や料理でその知識が利用できる**ので勉強はととてもやりがいがあるよ」「旅行などもとても楽しくなるしショッピングなどでも得する事が多いよ。」**と言っているの目につくと思います。**つまり志成館は勉強そのものがとても大切だし、とても価値あるものとの考えており、そのため日々こつこつと頑張っていかなければならないという考え方をもうひとつの大切な指導方針としてとっているのです。**むしろこちらの方を優先しているといってもいいくらいなのです。わかりやすく言いますと次のようになります。

勉強は決してお金もうけや出世のためだけにしているのではなく、むしろ「自分自身の心を豊かにし、人生を楽しく、生きることの尊さを知るために一生懸命に勉強している」のです。しかし現在の資本主義社会はすべてのひと人が生きていくための収入を得るための競争をしているから**「お金を得るために勉強しているように見える」**だけなのです。

このような方針で君達に授業を教えているのです。**このような考え方は別に特別のものではなく、教育ということを真剣に考えている、本当に教育が好きで、子供が好きで、先生という仕事が好き人の多くがこのように考えているのです。**過去から今日までの数多くの先生達に共通した考えでもあるのです。

ASSETSや社会科見学での経験や、よい映画をみたりロックであれクラシックであれいろいろな上質の音楽を聞くこともここでいう勉強なのです。かの偉大な福沢諭吉は「学問のすすめ」の中で勉強すればお金もうけができ出世ができるという面を強調しすぎたために功利主義(=金もうけ主義)の考え方だとして批判されることがあるのですが、志成館では、福沢諭吉の指導方針は間違っていないが現代ではもはや古すぎるとしてあまり高く評価はしないようにしています。現代の教育では福沢以上に、**勉強そのものにとっても価値があるということを意識して指導しています。**勉強って楽しくありませんか。もしテストがなかったり、実験や社会科見学や映像中心の学習だったらだったらきっとわかると思います。

しかしこのような指導理念を有する志成館も

進学や就職のための「学習」に負けることは認めません!!
高校や大学入試は人生でも確実に「勝てる戦い」なのです!!
全てが「自分自身との闘い」なのですから!!

長い話(笑)の終わりに

わかったかな?勉強そのものはとても重要であるし、楽しいし、日々の生活を楽しく豊かにしてくれる。そうである以上毎日頑張らねば。そしてそういう気持ちで日々勉強をすれば成績があがるに決まっている。そしてその頑張りが最初のほうで述べたように好きな会社への就職や自分で好きな仕事を始めるという結果を導き、お金もたくさんもってきてくれて有名になって尊敬もされるというおまけをつけてくれるのだったら、これほどうれしいことはないと思わないかい?

今の貴重なチャンスは待ってくれない!! 今の戦いはすぐにあつという間に終わってしまう!!

さあー 毎日精一杯、コツコツと、粘り強く 頑張ろう !!

2007年5月10日 志成館 館長 森 英行
2017年9月10日(日) 改訂